

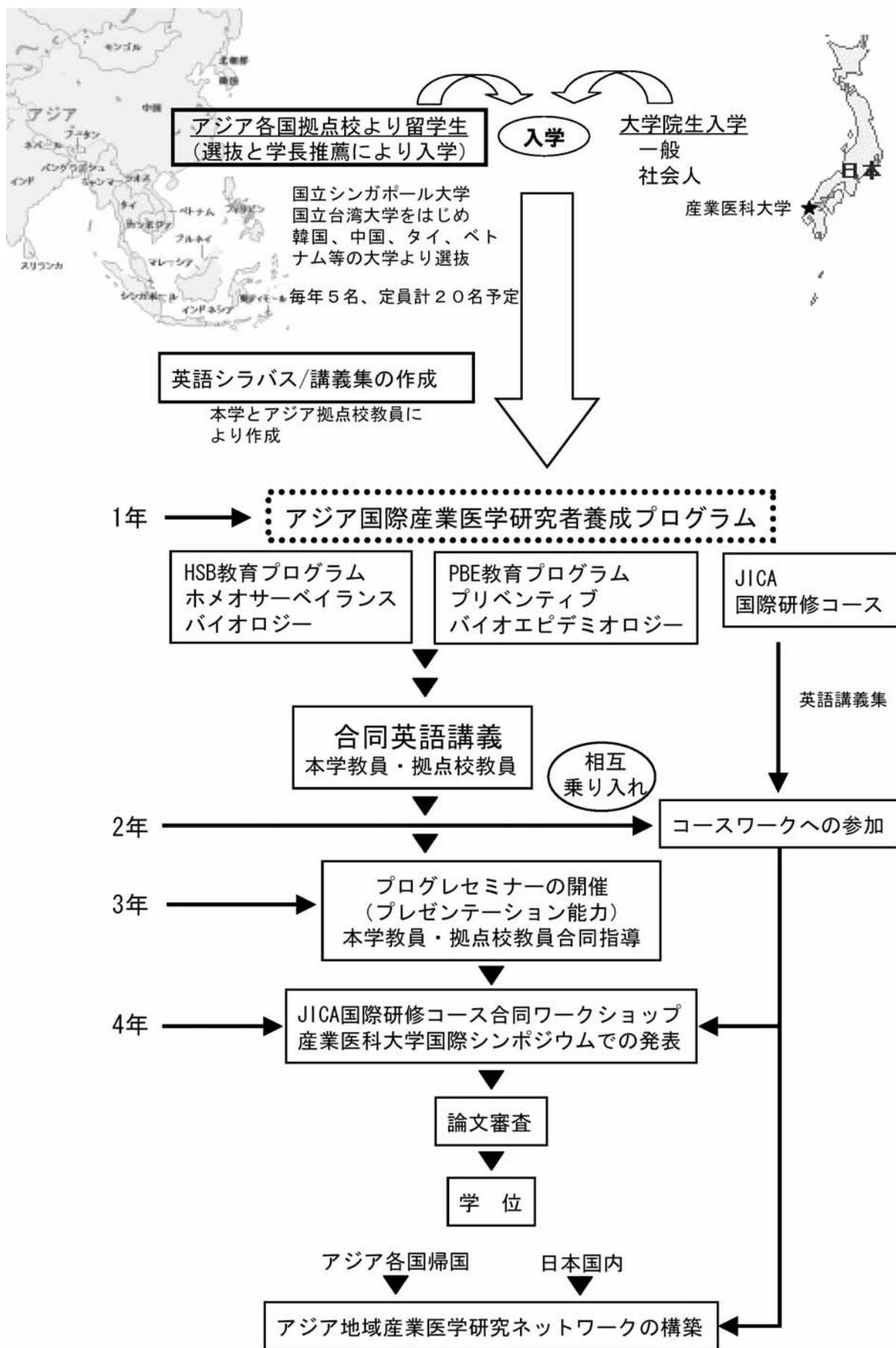
平成18年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ 教育プログラム及び審査結果の概要

◇「1.申請分野(系)」～「6.履修プロセスの概念図」:大学からの計画調書(平成18年4月現在)を抜粋

機 関 名	産業医科大学	整理番号	f011
1. 申請分野(系)	医療系		
2. 教育プログラムの名称	アジア国際産業医学研究者養成プログラム		
3. 関連研究分野(分科) (細目・キーワード)	主なものを左から順番に記入(3つ以内) 外科系臨床医学、基礎医学、社会医学		
	主なものを左から順番に記入(5つ以内) (外科学一般、病態医化学、公衆衛生学・健康科学、環境生理学)		
4. 研究科・専攻名 及び研究科長名 ([]書きで課程区分を記入、 複数の専攻で申請する場合は、 全ての研究科・専攻を記入)	(主たる研究科・専攻名) 医学研究科・障害機構系専攻[博士課程(一貫制)]	研究科長(取組代表者)の氏名 河野 公俊	
	(その他関連する研究科・専攻名) 医学研究科・生体適応系専攻 [博士課程(一貫制)] 医学研究科・環境・産業生態系専攻 [博士課程(一貫制)] 医学研究科・生体情報系専攻 [博士課程(一貫制)]		
5. 本事業の全体像(わかりやすく、具体的に記入してください。)			
5-(1) 本事業の大学全体としての位置付け(教育研究活動の充実を図るための支援・措置について)			
<p>本学は産業医の養成と産業医学研究を目的に設立された世界でも稀有な大学であり、働く人々の健康を科学し、その増進と活力創出を目指す科学研究が求められている。本学は地理的にアジア地域に隣接しており、本プログラムの実施に有利である。本年度から、協力講座の経済支援を基盤に、新たに毎年5名のアジア各国の拠点校から産業医学研究に関心のある留学生を公募し、本プログラムに日本人学生とともに参加させ競争的環境のもと、大学院研究の充実化と国際化をはかり、将来的に本学出身研究者を中心とした国際的に通用するアジア地域の産業医学研究ネットワークの構築をすすめる。近年、より統合的な視点からの大学院教育の重要性がクローズアップされてきている。そこで、次世代の統合的かつ国際的視点を持つ産業医や産業医学研究者の育成は急務と考えられる。本事業では、トータルヘルスプロモーション実践のための2つの教育プログラム(ホメオサーベイランスバイオロジー教育プログラムとプリベンティブバイオエピデミオロジー教育プログラム)を系共通プログラムとする。前者は、生体機能を監視する制御機序を分子レベルで明らかにするもので、後者は生体分子から予防疫学研究を進展させるもので産業医学全般をカバーする。教育・研究活動の支援として、一昨年より社会人大学院の導入、また、昨年より産業医科大学高度研究推進のための独自の予算措置を行い、プロジェクトの公募と外部評価によりいくつかの研究が採択され進行している。</p>			

機 関 名	産業医科大学	整理番号	f011
<p>5-(2) これまでの教育研究活動の状況(これまでの改善点と、今後の課題について)</p> <p>本学の医学研究科は、4つの専攻系からなり、医学部を基幹として大学病院と産業生態科学研究所の学際領域の研究部局をも含めて横断的に構成されている。その目的は、産業医学における、1：学術研究の高度化と優れた研究者の養成、2：高度専門職業人の養成、社会人の再学習機能の強化、3：教育・研究を通じた社会貢献及び国際貢献である。これまで本大学院はわが国の産業医学研究の中核機関としてその機能を果たしている。現在まで学位授与は577名にのぼる。また、この中からこれまで15名の本学出身教授を輩出している。さらに1988年より産業医学分野における我が国唯一のWHO指定協力機関として活動し、JICA国際研修コース(昭和61年以来連続21年実施)や国際遠隔講義(平成14年以来連続4年実施)を英語で実施している。</p>			
<p>5-(3) 魅力ある大学院教育への取組・計画(5-(2)を踏まえた大学院教育の実質化(教育の課程の組織的展開の強化)のための具体的な教育取組、発展的展開のための計画、及びこの取組によって改善が期待される点について)</p> <p>今回提案する2つの教育プログラムは、実質化に重点を置くために、</p> <p>1) JICA国際研修コースと一部相互乗り入れを行い、系共通教育プログラムとして組織する。特に外国人留学生を毎年参加させることにより学生を競争的環境におき、研究レベルの向上と国際感覚を高めることを意識した。</p> <p>2) 教育プログラムとして、(A)ホメオサーベイランスバイオロジー教育プログラム、(B)プリベンティブバイオエピデミオロジー教育プログラムの2つを系共通講義としてコースワーク化をはかる。すなわち、現行のカリキュラム講義の一部をすべての教員に英語講義を義務化だけでなく講義ノートを作成する。学生にはJICA国際研修コースの一部受講を義務づける。その後の研究指導は、指導講座を介して進捗状況(プログレスセミナー)、4年次にはJICA研修コース参加者とのワークショップの開催やこれまで独自に開催している産業医科大学国際シンポジウムに参加・発表させる。この様な英語教育プログラムとセミナー・ワークショップ開催については、本学と連携実績のあるアジア5大学の招聘教員もくわえた総合的指導を企画しており、従来にない独創的なものである。</p> <p>科学的根拠とその研究基盤を理解実践できる、次世代の新しい産業医学研究を推進できる国際感覚にあふれた研究者と産業医の養成を図る。すなわち、本学出身及びアジア各国出身の若い人材による産業医学研究ネットワークの構築を推進したい。</p>			

6. 履修プロセスの概念図(履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。)



<審査結果の概要及び採択理由>

「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な研究者養成に関する教育取組に対し重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化(教育の課程の組織的な展開の強化)を推進することを目的としています。

本事業の趣旨に照らし、

①大学院教育の実質化のための具体的な教育取組の方策が確立又は今後展開されることが期待できるものとなっているか

②意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画となっているか

の2つの視点に基づき審査を行った結果、当該教育プログラムに係る所見は、大学院教育の実質化に向けた各項目の方策が優れており、事業の趣旨に適合した成果が期待されると判断され、採択となりました。

なお、特に優れた点、改善を要する点等については、以下の点があげられます。

[特に優れた点、改善を要する点等]

- ・JICA国際研修コース、国際遠隔講義などを英語で実施してきた経験を基に、アジア各国から留学生を公募し、国際産業医学研究者の養成を目指す教育プログラムは注目に値するものであり、国としても力を入れるべき企画である。
- ・近隣諸国に目を向け、研究科の努力で留学生を招聘し、その学生と国内の学生との競争的環境を醸成しようとする発想は優れている。また、新たに立ち上げる2つの教育プログラムは斬新であり、大学院修了生が、それぞれの専門性を活かして世界で活躍してくれることを期待する。
- ・本プログラムを他の医学領域にも展開できることを期待したい。